

活動報告書

自民党 衆議院議員  
外務大臣政務官

# 木原誠二

せいじ便り 68号

一歩一歩ともに



## 引き続き外務大臣政務官として全力

### モンゴル、ブータン、沖縄、拉致問題

#### モンゴル、ブータン

6月も日・モンゴルEPA交渉の首席交渉官としてウランバートルに出張したほか、先日はブータン王国のトブゲール首相と会談。東日本大震災の際、ブータンのワンチュク国王・王妃両殿下が福島を訪れ、心温まる祈りと励ましをいただいたことは、記憶に新しいことと思います。そのことにお礼を申し上げるとともに、ブータンへのODA供与開始から60周年の今年、引き続き、ブータンの農業改革、電力改革などに協力していくことで合意。中国とインドに挟まれるブータンは、地勢的にも重要であり、今回の首相の訪日をきっかけに二国間関係をしっかりと強化していきます。

また、7月2日、3日と沖縄を訪問。嘉手納基地



#### 沖縄訪問

また、7月2日、3日と沖縄を訪問。嘉手納基地

で第18航空団司令官・ジェームズ・ヘカー准将、普天間飛行場において在沖縄海兵隊政務外交部長・トゥルー・アクス大佐など、米軍関係者と地域情勢や米軍再編などについて意見交換を行うとともに、基地周辺における事件・事故の発生防止や騒音への対応強化、基地返還にかかるロードマップの実行に向けた協力を求めました。

併せて、自衛隊那覇基地の南西航空混成団の杉山司令を訪問。南西航空混成団は、緊張関係が続く中国との最前線にあり、スクランブル発信が最も多い部隊。中国機の異常接近事案なども起こっており、隊員のストレスは極めて高く、その中で懸命に任務にあたっていた聞いています。多くの隊員の皆様にご心からのお礼を申し上げます。

そして、どうしても行きたかったのが平和祈念公



園、そして献花。あらためて戦争の惨禍に想いをよせ、二度とあのような悲惨な時がないよう、誓いを新たにしました。私の大叔父二人は、いずれも20代前半で、この沖繩から戦地に発ち帰らぬ人となりました。二人の出身地である山梨県の慰霊碑、そしてもちろん東京の慰霊碑にも献花させていただきました。



# 地域再生に向けて

## 観光、地産地消、子育て



日本の総人口は、08年の約1億3000万人をピークとして減少し始め、48年には1億人を切ると推計されています。加えて、04年に20%だった高齢化率も50年には40%に達する見込みです。こうした状況下で、全国の自治体では存続の危機が懸念されています。幸い東京など3大都市圏の市町村にはその惧れは少ないと言われていますが、備えだけはしておくことが大切です。

### 北朝鮮

拉致問題が動き出しました。5月の日朝政府間協議では、拉致問題について「既に解決済み」としていた北朝鮮が、包括的で全面的な調査を再開すること、被害者が発見された場合には帰国に向けて取り組むことなど、文書にて合意されました。そして、7月1日の日朝政府間協議。北朝鮮側は、国防委員会、国家安全保障部など国家的判断が下せる強い権力を持った機関が前面に出る形で特別調査委員会を発足させました。これを受け、「行動」対「行動」の原則の下、我が国は、独自に課してき

た制裁の一部を解除することを決定。ただし、今回解除した制裁は、国連とは別に、あくまでも我が国が独自に課しているものであり、国連に求められている制裁は我が国としても維持しております。また、輸出入の禁止やチャーター便の禁止など、我が国が独自に課しているその他の措置については維持しています。加えて、北朝鮮側が誠実な対応を取らなければ、今回解除した制裁を再度課すこともできます。今後、「対話」と「圧力」の原則の下で、拉致被害者、そして特定失踪者の全員帰還、全容解明、実行犯の引き渡しなどに取り組みんでいきます。

私達が住む北多摩の場合、キーワードは、観光、地産地消、子育て、などです。2020年には東京オリンピックパラリンピックが開催され、3000万人近い人々が訪日をされます。この方々は、毎日競技を見るわけではありません。日本の暮らしか文化なども体験しようとするはず。都心から30〜40分の北多摩地区、自然に恵まれ、都市農業、狭山茶、蕎麦やうどん、酒蔵、国宝の寺院など、特

徴豊かな北多摩地区では、今こそ、観光の活性化に向けて動き出すときです。そして、地産地消。都市農業における地産地消はもちろん、「地元の仕事は地元で」の意味での地産地消に取り組みときます。加えて、子育て。北多摩地区は、国有地や公有地が多く存在しています。こうした国有地、公有地を安易な再開発に回すのではなく、子育てしやすい環境の整備のために、例えば、保育園や学童あるいはスポーツ施設の整備などのために積極的に活用していくことが大切です。地元の皆様の様々なご提言もいただきたいと思えます。



### PROFILE

年金・医療・介護、障害者福祉、行財財政改革、公務員制度改革、都市農業など幅広く活動を展開。1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

Facebook <https://www.facebook.com/seiji.kihara>

twitter ID [http://twitter.com/kihara\\_seiji](http://twitter.com/kihara_seiji)

### 地元事務所

〒189-0013 東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2F  
TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

### 国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館915号室  
TEL 03-3508-7169 FAX 03-3508-3719

<http://www.kiharaseiji.com>

発行：木原誠二後援会 東京都東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2階